

2015年3月期 中間決算について

- 2015年3月期(2014年度)中間連結決算は、前年同期比「増収減益」。総発着回数、国際線外国人旅客数、国内線旅客数、仮陸揚貨物量は、いずれも開港以来過去最高を記録。国際線外国人旅客の堅調な推移に伴いテール事業で増益。他方、航空機発着回数は増加したものの機材の小型化等により空港運営事業が減益となったことから営業利益、経常利益、中間純利益は減益。
- 通期連結業績予想は、5月9日発表の予想から、営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも上方修正。前年同期比「減収減益」となるが、当期純利益は過去最高益の昨年度に次ぐ民営化以降第2位の水準。

1. 航空取扱量について

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)				前回見通し (5月9日 発表)
	2013年度 実績 A	2014年度 実績 B	【増減①】		2013年度 実績 C	2014年度 見通し D	【増減②】		
			数量 B-A	% B/Ax100			数量 D-C	% D/Cx100	
航空機発着回数(万回)	11.3	11.6	0.3	102.4	22.6	22.8	0.2	100.9	23.4
国際線	8.9	9.0	0.0	100.5	17.8	17.7	▲0.1	99.5	18.0
国内線	2.4	2.6	0.2	109.5	4.8	5.1	0.3	105.9	5.3
航空旅客数(万人)	1,811	1,793	▲19	99.0	3,604	3,509	▲95	97.4	3,537
国際線	1,561	1,487	▲74	95.3	3,086	2,905	▲181	94.1	2,913
国内線	251	306	55	122.0	518	604	86	116.6	624
国際航空貨物量(万トン)	96	102	6	105.8	199	206	7	103.7	183
給油量(万kl)	240	235	▲4	98.1	481	465	▲16	96.6	467

(1) 2014年度中間期の実績【増減①】

- 航空機発着回数は、国際線及び国内線の新規就航や増便によって、前年同期に比べて増加。
- 航空旅客数は、国際線外国人旅客及び国内線旅客は増加したものの、国際線日本人旅客が減少したことから、前年同期に比べて減少。
- 国際航空貨物量は、輸出貨物や仮陸揚貨物量が増加し、前年同期に比べて増加。
- 給油量は、機材の小型化等により、前年同期に比べて減少。

(2) 2014年度通期の見通し【増減②】

- 航空機発着回数は、国内線を中心としたLCCの増便、新規就航等により、前年同期を上回る見通し。
- 航空旅客数は、国際線の日本人旅客が低調で推移し、前年同期を下回る見通し。
- 国際航空貨物量は、仮陸揚貨物が堅調に推移し、前年同期を上回る見通し。
- 給油量は、機材の小型化等により、前年同期を下回る見通し。

2. 連結決算について

(単位:億円)

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)				前回予想 (5月9日 発表)
	2013年度 実績 A	2014年度 実績 B	増 減		2013年度 実績 C	2014年度 予 想 D	増 減		
			金 額 B-A	% B/Ax100			金 額 D-C	% D/Cx100	
営業収益	994	1,000	5	100.6	1,994	1,967	▲27	98.6	1,906
営業利益	233	219	▲13	94.0	398	350	▲48	87.9	335
経常利益	200	191	▲9	95.3	333	293	▲40	87.9	271
中間(当期)純利益	128	115	▲12	90.0	199	178	▲21	89.3	165

(注) 業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量等に基づき作成したものであり、

不確定要素を含んでおります。

成田国際空港株式会社

〒282-8601 千葉県成田市成田空港内 NAAビル
URL: <http://www.narita-airport.jp/jp/>WORLD
SKY GATE
NARITA

(1) 経営成績の概要

営業収益は1,000億円(前年同期比5億円(0.6%)増)、営業利益は219億円(同13億円(6.0%)減)、経常利益は191億円(同9億円(4.7%)減)、中間純利益は115億円(同12億円(10.0%)減)の「増収減益」

- ▶ 空港運営事業： 航空機発着回数は増加したものの、機材の小型化等に伴う平均着陸重量の減少等によって空港使用料収入、給油施設使用料収入が減収。また、国際線日本人旅客の減少によって旅客施設使用料収入が減収。営業収益は前年同期比3.2%減の517億円、営業利益は前年同期比28.7%減の49億円と減収減益。
- ▶ リテール事業： 国際線外国人旅客の増加や店舗増床・リニューアル等により、子会社の物販・飲食収入及び一般テナントからの構内営業料収入が増加。営業収益は前年同期比8.2%増の312億円。営業利益は前年同期比8.0%増の94億円と増収増益。
- ▶ 施設貸付事業： 営業収益は前年同期比0.5%減の156億円、営業利益は前年同期比0.2%減の73億円とほぼ前年並み。
- ▶ 鉄道事業： 営業収益は前年同期比0.4%減の14億円。営業利益は前年同期比0.9%減の3億円とほぼ前年並み。

(2) 財政状態の概要

- ▶ 資産合計は、空港処理能力30万回化に向けた設備投資はあったものの、減価償却が進んだことによる固定資産の減少等により前連結会計年度末比25億円(0.3%)減の8,568億円。
- ▶ 負債合計は、未払法人税等の減少等により前連結会計年度末比47億円(0.8%)減の5,872億円。有利子債務残高は、同6億円(0.1%)減の4,779億円。(平均金利は前連結会計年度末から大きな変化はなく1.32%)。無利子債務を加えた長期債務残高は、同6億円(0.1%)減の5,166億円。
- ▶ 純資産合計は、前連結会計年度末比21億円(0.8%)増の2,696億円。自己資本比率は、前連結会計年度末の30.1%から30.4%へ増加。

(3) キャッシュ・フローの概要

- フリー・キャッシュ・フローは63億円のキャッシュ・イン(前年同期比177億円の減少)
 - ▶ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益の減少等により前年同期比56億円減の295億円のキャッシュ・イン。
 - ▶ 投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得による支出の増加等により前年同期比120億円増の232億円のキャッシュ・アウト。
 - ▶ 財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の償還による支出がなかったこと等により前年同期比140億円減の66億円のキャッシュ・アウト。

(4) 通期の連結業績予想

営業収益は1,967億円(前年同期比27億円の減)、営業利益は350億円(同48億円の減)、経常利益は293億円(同40億円の減)、当期純利益は178億円(同21億円の減)の「減収減益」見通し(当期純利益は過去最高益の昨年度に次ぐ民営化以降第2位の水準)

- ▶ 国際線外国人旅客数の増加や店舗増床・リニューアル等によりリテール事業は増収。他方、航空機発着回数は増加するものの、機材の小型化に伴う平均着陸重量の減少等により空港運営事業が減収となり、前年同期比で減収減益となるが、当期純利益は民営化以降第2位の水準。
- ▶ 前回業績予想(5月9日発表)から、営業収益は61億円(3.2%)増、営業利益は15億円(4.5%)増、経常利益は22億円(8.1%)増、当期純利益は13億円(7.9%)増といずれも上方修正。

(注) 業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量等に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。